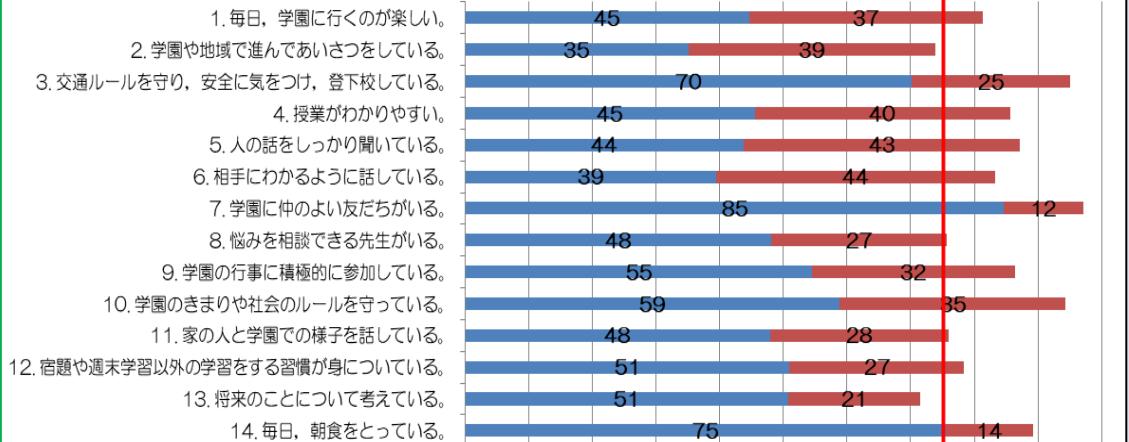


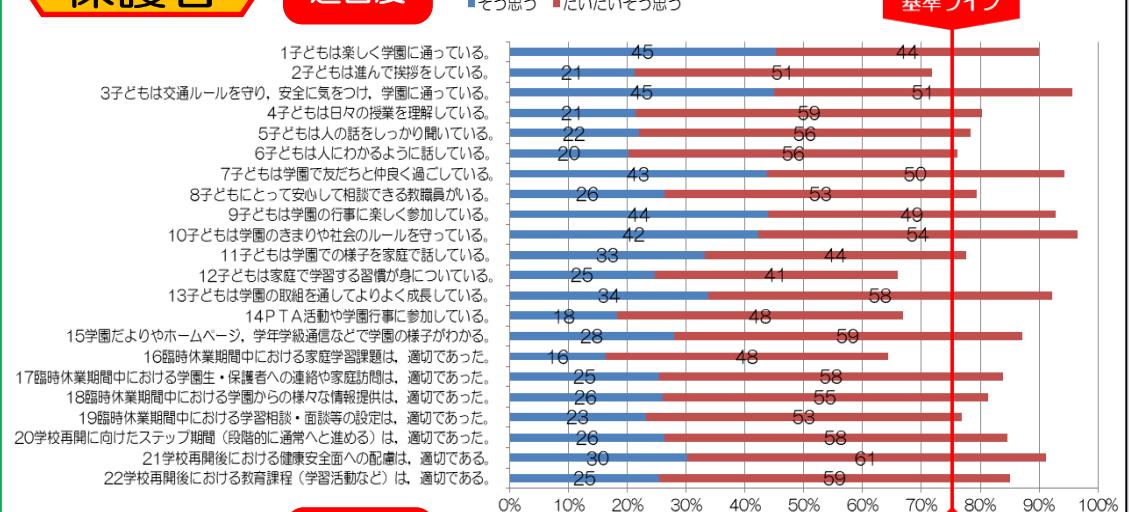
前期学園評価アンケート結果

令和2年
10月実施

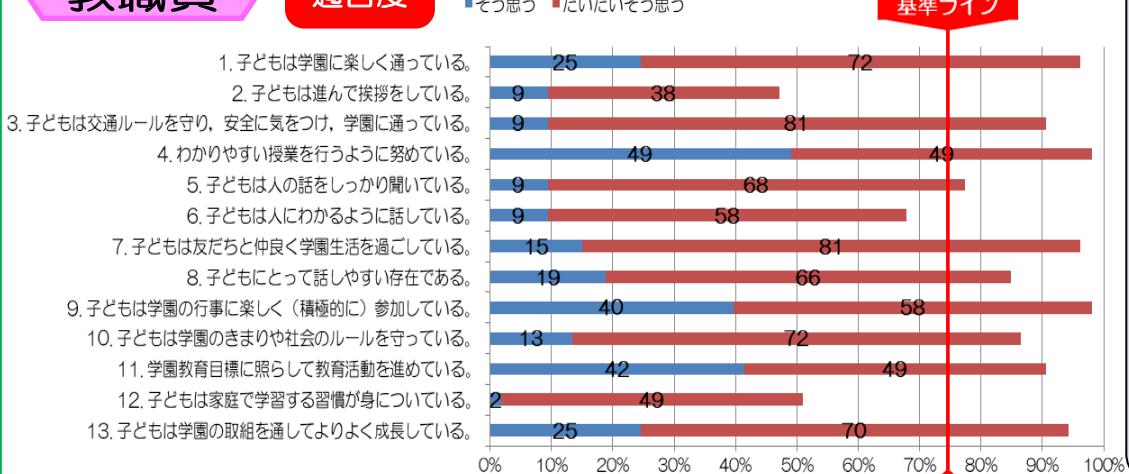
学園生 適合度



保護者 適合度



教職員 適合度



《結果の見方について》

- 学園生・保護者・教職員の適合度について、アンケートを実施しました。
- 肯定的な回答のみ（横棒グラフの左から「そう思う」「だいたいそう思う」の順）をグラフ化し、75%を判断の基準としています。

《結果をもとにした考察》

- 「学園に仲のよい友だちがいる。」「子どもは学園で友だちと仲良く過ごしている。」結果から、学園生が友達と楽しく学園生活を過ごしていると感じており、学校が人と人をつなげる場所として役割を果たしていることがわかります。
- あいさつについては、依然として課題がみられます。引き続き、学園生・教職員が一体となって取り組んでいく必要があります。
- 「将来のことについて考えている。」結果から、すべての学園生が明確な将来展望をもっているとは言がたい現状があります。学園生一人ひとりの自己肯定感を高める取組をすすめることや、働くことや家庭生活など、具体的な将来像について学習する機会を設定していく必要があります。
- 臨時休業から学校再開までの対応について、概ね理解をいただいている。しかし、臨時休業期間中の家庭学習課題については、多くの家庭から学園生一人ではすすめられないというお声をいただきました。再び休業になった場合を想定して、家庭学習の内容について検討していく必要があります。

保護者の皆様には、お忙しい中アンケートにご協力をいただきありがとうございました。また、臨時休業から学校再開までの対応についてもご協力いただきありがとうございました。今回提出いただいたアンケート用紙は、584枚でした。結果としては、概ね肯定的な回答が多くかったのですが、自由記述欄にお書きいただいた内容から、保護者の方々のおもいをうかがうことができました。学園運営協議会理事の皆様からは、コロナ禍においての学校の在り方や意義を再確認し、学園生一人ひとりの個性を伸ばす教育を進めていくことが大切であるとご示唆いただきました。学園生一人ひとりが、明確な将来展望をもって、なりたい自分になれるよう、家庭と地域、学園が連携・協働しながら、子どもをよりよく育んでいきたいと考えています。今後も引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。